

う補助及び融資を実施してまいります。

家庭等から排出されるゴミについては、資源ゴミの回収について引き続き町内会の協力をいただきながら、ゴミ減量化に向けた取り組みを進めてまいります。

また、不法投棄も後を絶たないことから、監視パトロールの強化や監視カメラの設置のほか、広報等による啓発及び注意喚起の看板を設置するなどして、引き続き不法投棄の未然防止に取り組んでまいります。

道路は、あらゆる方面で社会資本の基盤となるもので、安全・安心な暮らしに大きく寄与しております。

これらの、基幹となる国道及び道道については、各町内会から多様な要望があることから、関係機関に対し適切な維持管理や道路改良の早期実施に向けて、引き続き要請に努めてまいります。

また、町道の改良及び橋梁などについては、各地域からの要望を踏まえるとともに、緊急性と優先度を勘案しながら、「第5次福島町総合計画後期実施計画」及び「長寿命化計画」に基づき、定期的な点検や計画的な事業の実施により、安全・安心な交通の確保に努めてまいります。

町営住宅については、入居者が安心して暮らせるよう、計画的な維持管理に努め、快適な住環境を提供してまいります。



整備が進む丸山団地

町内の空き家対策については、「空家等の適正管理に関する条例」が有効に活用され、所有者による解体が進んでおりますが、依然として放置されている危険な空き家が存在し、各町内会から不安の声が上がっております。

今後も、空き家の適正な管理の啓発に努めるとともに、所有者に対する指導・助言を行い、町民の不安解消に努めてまいります。

近年は、全国各地でこれまでに例を見ない大きな自然災害が地域を問わず発生しており、各地に甚大な被害をもたらしています。

当町においては、幸いこのような災害は発生しておりませんが、いつ大きな災害に見舞われるか予測もつかない現状となっております。

この様なことから、「国土強靱化計画」に基づき、防災・減災に向けて取り組むとともに、自然災害から町民の生命と財産を守るため、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

また、防災訓練については、町民のさらなる防災意識の向上を図るため、引き続き効果的な実施に取り組むとともに、全世帯に防災備蓄品として、非常食や保存水などの配布を行い、日頃から災害に備える体制を支援してまいります。

地域コミュニティの活動拠点である、各町内会館等については、再編計画に基づき、順次、統廃合を進めており、令和3年度においても、引き続き計画に基づき整理統合に取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症対応のためのテレワークやオンライン授業等の「新たな日常」に必要な情報通信基盤の整備を目的とした、民設民営方式で町内の光ファイバー未整備地区を整備する「高度無線環境整備事業」については、令和

3年度に繰越し、年度内に町内全世帯で利用可能になるよう取り組んでまいります。

6 地域資源を活用した交流人口の促進

当町は、日本が世界に誇る世紀の遺産「青函トンネル」、日本唯一の「二人の横綱が誕生した町」、道南の秀峰「大千軒岳」や道南の秘境「岩部海岸」、「青の洞窟」等の素晴らしい自然や景観、「殿様街道」をはじめとした歴史に基づく史実、海や山からの特産品の数々等、地域資源が豊富な町であります。

年々進む人口減少に歯止めがかからない状況にありますが、定住対策を引き続き進めるとともに、こうした豊富な地域資源を活用しながら交流人口や関係人口を増やし、地域の活性化に繋げてまいりたいと考えております。

当町の魅力を広く町外に発信するため、観光ホームページやポスターをはじめ、様々な媒体を活用し町のPRを実施するとともに、イベントや観光施策及び地域資源の積極的なプロモーション活動に取り組んでまいります。

また、イベントなどの来場者や、当町を応援してく

ださる「ふるさと納税の寄付者」などとの関係性を強め、全国各地からリピーター確保が図られるよう、事業の取り組みに努めてまいります。



FOOD TOURISM PROJECT で提供されるアワビカレー

7 第2青函トンネル構想の実現

昨年11月に、北海道経済連合会主催、JAPIC（一般社団法人日本プロジェクト産業協議会）共催で開催されたシンポジウムで、これまでの構想案をさらに深化させた「津軽海峡トンネルプロジェクト」をJAPICが発表しました。

北海道新幹線の速達性の課題及び青函物流問題に対する解決策としての第2青函トンネルの必要性をはじめ、トンネルの構造・事業費、事業性などの具体的な説明が示され、第2青函ト